



Title	母と子の心の健康を考える : フォーラムに参加して
Author(s)	速水, 敏子
Citation	大阪公衆衛生. 1980, 42, p. 31-34
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84055
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「母と子の心の健康を考える」 ——フォーラムに参加して——

速 水 敏 子

(大阪府門真保健所)

府の保健婦がやっている障害児研究会のメンバーが報告するというので、公衆衛生協会の行事にはじめて参加させていただきました。

しかし、「母と子の心の健康」というテーマには、それがどういう角度からとりあげられるのか、大変興味がありました。

それは日頃の仕事の中で遭遇する「幸せにあふれていない母と子」の例が、量の増加と共に内容が深刻になってきていることに心を痛めていたからです。

少しその内容にふれてみたいのですが、例えば門真市では人口の流入が超スピードで進んだ高度経済成長時代に、あふれるように建ちすすんだいわゆる「文化住宅」(四畳半、6畳、台所という間取りの2階建て住宅)は、そろそろこわれはじめ、その跡に、或はさらに宅地化が進んでいく部分では、先の文化住宅とは少し高級な、2階建て四間程度の瓦屋根の一戸建て住宅が建ってきています。いま、宅建業者が「ニュータウン」として売り出している街です。

そこに入る人は、親から家を買ってもらったか、今まで文化住宅でぎりぎりの生活をしてきた人達ようです。

この中では超過密の「文化住宅」とは違った、もっと底の深い母と子の孤立化がすすんで行くように思えてなりません。自分の生活の「やや高級意識」から陥る母親たちの息のつまるような競争心、隣のベランダに新しいジュタンが干されれば、次の日には自分もそうし、自分の家のまわりを掃除したら隣の

家にはちょっと泥水をかけておくような意識構造、それについて行けない気の弱い母たちは被害者意識に押しつぶされそうになって、赤ん坊と家の中に閉じこもってしまいます。近隣の目がいやで陽なたばっこも、買い物も苦痛……という状態。そんな母と子の精神状態の不安定さは推して知るべしです。

「社会経済全体にかかわる……」などと大きなことを云わないまでも、地域全体をそっくり対象として変えていかなければどうにもならないような重い大きな問題です。とても「保健指導を業とする……」といった保健婦の機能では対応できないことです。

そういった中で門真では昨年から週1回「保育教育」をはじめ、知識、経験不足で育児がうまくできない母のためには、扱い方の練習の場、家の中で近隣の目を気にしながら緊張の毎日を送っている母のためには、せめて気楽に過せる場、そして母と子の集団づくりの場としてすすめております。

しかし、新規事業には全く予算がつかない行政の枠の中で、自分たちがうけてきた教育の分野とはいささか外れた知識や技能を、経験や学習で補いながらの試行索誤には、とても困難があります。



従来、〇〇病と病名がつかなければ大体、社会教育の問題とされてきた母と子の心の問題が健康の問題として、公衆衛生的にとりあげられるようになったということは、大変意義のあることだと思います。それはどのような

(34ページへ続く)

(31ページから続く)

にしつけるか、育てるかという価値観の問題ではなく、人間が人間らしく育つかどうかとうぎりぎりのところまで問題が、迫っていることの現われであるかも知れませんし、また、指導者といわれる参加者自身にとっても、それぞれが健康な親子関係を培い得る感性を持っているかどうかを問う内容を持った研究会であるからです。

よく考えると、母と子の問題は、代々増幅されてゆくことですし、非行や自殺など、すでに大きな社会問題となっている諸事象が、一世代前に播かれた種によるものであることは、次の世代はどうなっていくのか恐ろしいものを予想させてしまいます。

公衆衛生の課題が、かつて伝染病を起す起

炎菌の追及、撲滅であったように、今、母と子の心身の健康を浸す原因物を追及し、なくして行くことなのだという事を、それをいそいでやらなければならないことを問題提起するフォーラムであったと思いますし、今後とも更に問題を掘り下げ、広げる企画をして下さるようお願いものです。

